

## 4.長岡宮跡第473次(7ANBMC-10地区)

### ・南垣内遺跡発掘調査報告

#### 1. はじめに

この調査は、府道上久世石見上里線道路緊急安全確保小規模改良業務に伴い、京都府建設交通部の依頼を受けて実施したものである。現地調査は、物集女街道沿いで、長岡宮の区画溝の検出を想定して設定した第1トレンチ(12㎡)、石見上里線に平行して設定した第2トレンチ(48㎡)の合計60㎡を行った。現地調査期間は、平成21年7月7日から平成21年7月28日である。

調査地は、向日市寺戸町南垣内56-1ほかに所在し、向日丘陵の東側斜面、標高24m前後の低位段丘にむけて発達する扇状地の扇頂部付近に立地する。

調査範囲は、長岡京の条坊推定復原によると、長岡宮の北側の北辺官衙域の北部にあたり、西一坊坊間大路の西側溝の延長部にあたる地点である。調査地の西方の北一条大路・西一坊大路角には、方四町あるいは六町とも推定されている宝菩提院廃寺があり、調査地は寺域内に含まれる可能性もある。また、物集女街道沿いに栄えた中世集落南垣内遺跡に含まれている。現地調査は、当調査研究センター調査第2課主幹調査第3係長事務取扱石井清司、同専門調査員竹井治雄が担当した。なお、調査に係る経費は全額、京都府建設交通部が負担した。国土座標は日本測地系第VI座標系を用いている。本報告は竹井が執筆した。

#### 2. 周辺地域でのこれまでの調査(第2図)

当該地は長岡宮の北辺官衙地域の北部に位置する。周辺の発掘調査例では、調査地の南約50mの宮内第106次調査で、鎌倉時代後半から室町時代の建物跡・土坑を検出している。東約10mの長岡宮跡第126次調査では、幅1.2~1.5m、深さ0.1~0.2m、検出全長6m以上の平安時代前期の東西溝を検出している。調査地の北側、府道石見上里線を挟んで北10mに位置する宮内第319次調査では、鎌倉時代の掘立柱建物跡・柵を含むピット群や井戸などを検出している。調査地の南側の宮内第358次調査では、長岡京期・平安時代前期の遺構・遺物の検



第1図 調査地位置図  
(国土地理院 1/25,000 京都西南部)



第2図 調査地位置図および周辺調査地

出はなかったが、中世から近世にかけてのピット群、近世溝などを検出している。

### 3. 調査概要

#### 1) 検出遺構

これまでの周辺地域での調査例から、長岡京期・平安時代前期、中世以降の建物群を想定して発掘調査を実施した。調査は、物集女街道と府道石見上里線との交差点に近い部分に、南北2m、東西6mの1トレンチ、石見上里線に沿いに南北2m、東西24mの2トレンチを設定した。調査にあたっては、周辺の調査事例から、長岡京期・平安時代前期、中世以降の建物群を想定して慎重に進めた。

#### ① 1トレンチ(第3図)

古墳時代後期の東西方向溝S D03、中世の円形の土坑S K01、近世以降の井戸跡を検出した。

**土坑S K01** 直径1.2m、深さ0.8mを測り、平面は円形、断面は逆台形を呈する。上層では灰褐色粘砂質土、粘質土、下層では暗灰褐色粘性土、青灰色粘質土が堆積する。遺物は大半が上層からのもので、中世の土師器、瓦器、白磁のほか、石塔の上部が出土した。これには、「南無妙・」の文字が刻まれていた。下層からは瓦器碗、曲物の破片が僅かに出土した。

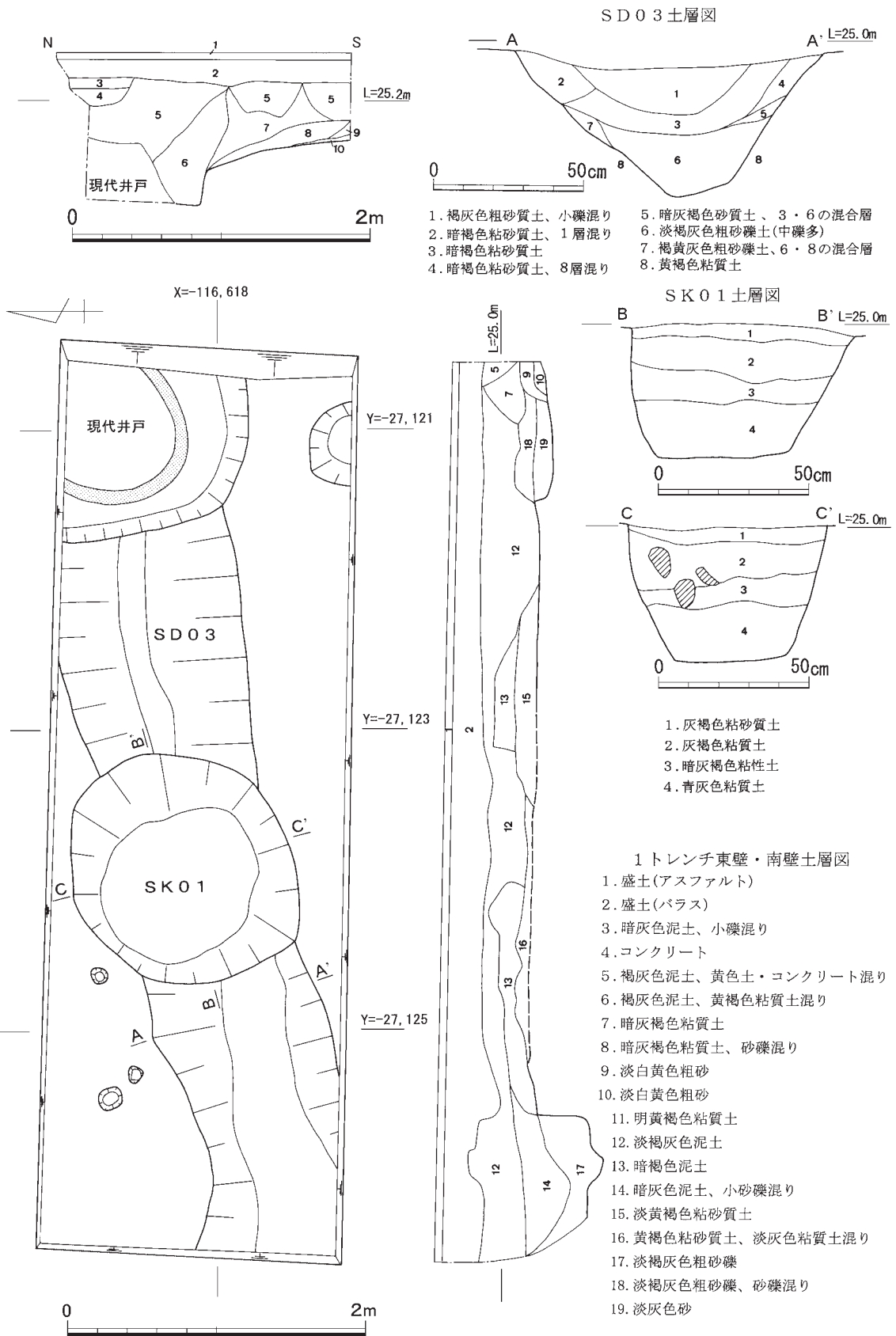
**溝S D03** 北に対して西に約8°振れ、東西方向に蛇行する。溝幅1.2m、深さ0.5mを測り、断面は「V」字状を呈する。上層では主に暗褐色粘砂質土、下層では褐灰色粗砂礫、砂質土の互層が堆積する。下層の状況は、流水による自然堆積と思われる。上層から、古墳時代の土師器高杯、須恵器高杯等が出土した。

#### ② 2トレンチ(第4図)

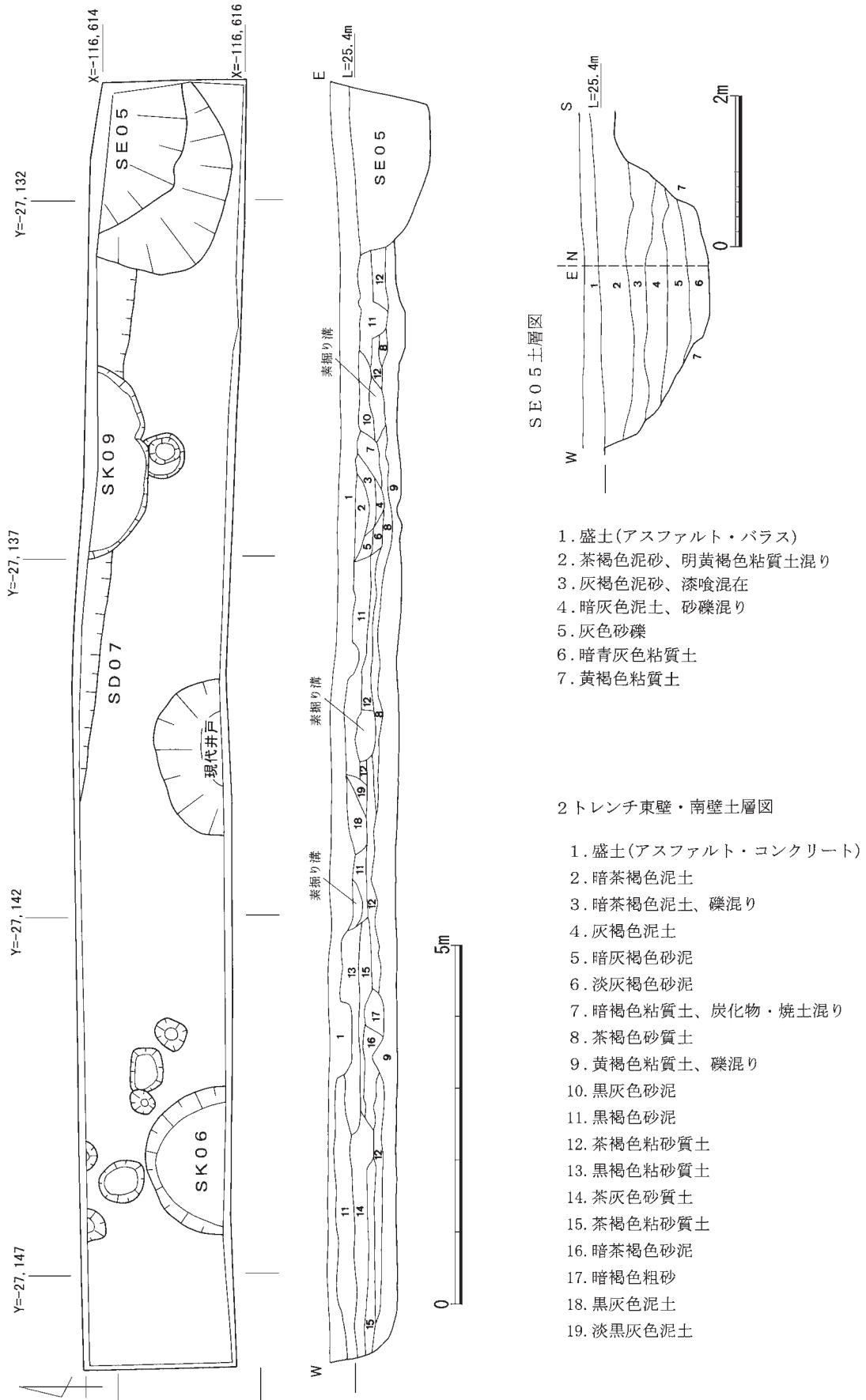
1トレンチの西側はブロック塀などが増設されており、2トレンチは1トレンチから約4m離れた位置にある。この東西のトレンチからは溝状遺構S D07、S D07を切る土坑S K09、井戸S E05、土坑S K06と柱穴数か所を検出したが、東端は現在の攪乱によって大きく削平されていた。

**井戸S E05** 直径3m以上、深さ1.2mを測り、平面は円形、断面は挿鉢状を呈する。上層では漆喰が混在する灰褐色泥砂、中層は泥土が厚く堆積する。底面付近では暗青灰色粘質土が堆積する。土師器、瓦器、磁器(染付け)が出土した。近世以降の井戸跡と思われる。

**溝S D07** 北に対して東に約5°振れる東西方向の溝である。溝幅は北側がトレンチ外であるため不明であるが、断面の「U」字形を呈し、幅0.5m以上、深さ0.4mと推定する。平安時代の土師器、須恵器、古瓦、磚等が出土した。



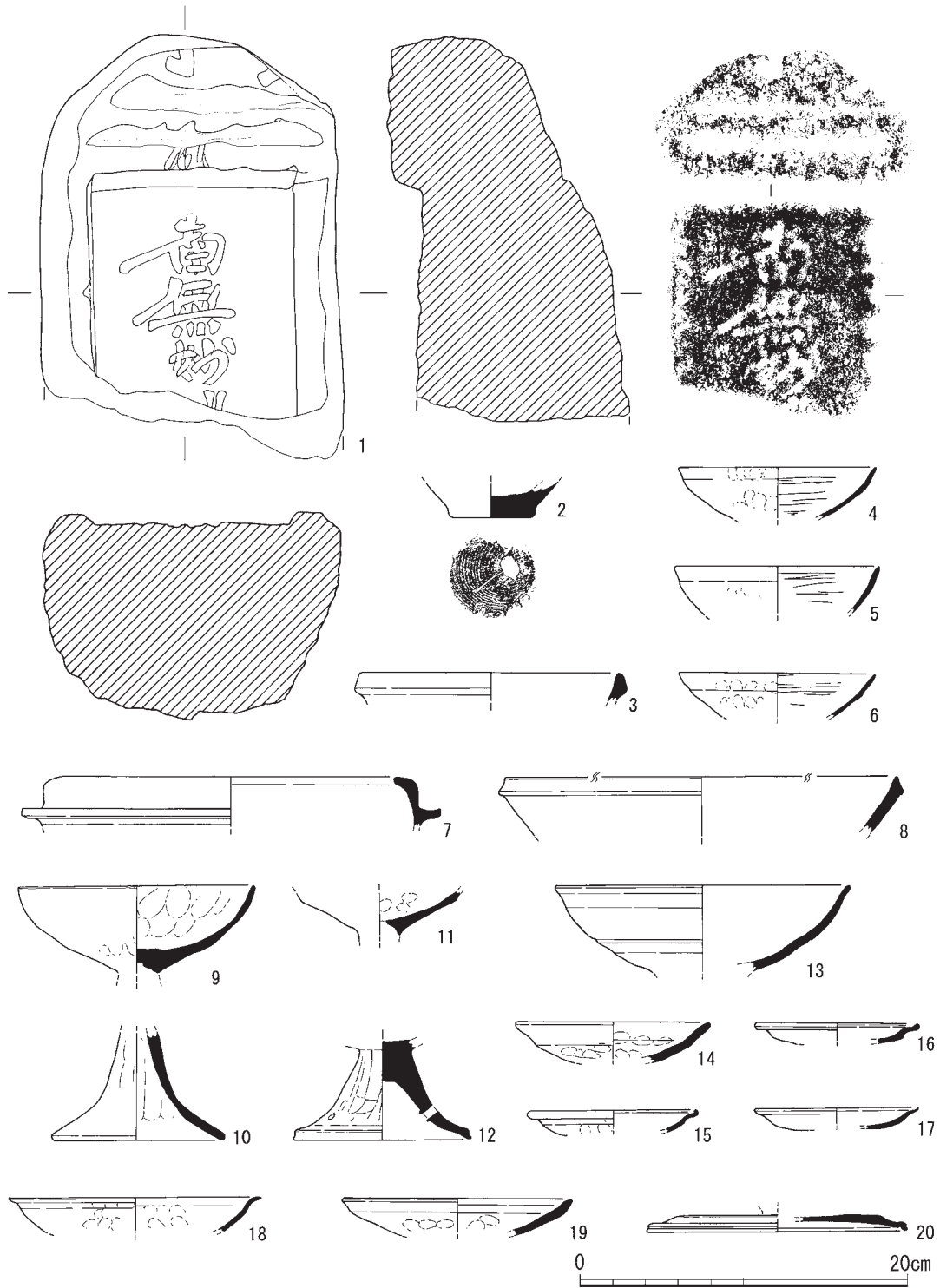
第3図 1 トレンチ検出遺構配置図



第4図 2トレンチ検出遺構配置図

土坑 S K 09 S D 07 を切り込んで検出した円形土坑である。断面は椀状を呈し、堆積土は、灰褐色を呈する泥土・砂泥・粘質土の互層である。S D 07 の堆積土に類似する。出土遺物は、須恵器、土師器、古瓦等がある。

土坑 S K 06 直径 2.2m、残存する深さ 0.2m を測り、平面円形、断面は筒状を呈する。底面、側面には厚さ 5～7cm の漆喰が残る。近世の「野壺」であると思われる。



第 5 図 出土遺物実測図

柱穴群 トレンチ西側寄りで検出した柱穴は、平面形は円形を呈し、直径0.3～0.4m、深さ0.1mを測る。土師器の細片が出土したが、時期は、中世に属するものと思われる。

## 2) 出土遺物(第5図)

土坑S K01(1～8) 1は下半部欠損のため全容が不明であるが、石塔であると思われる。花崗岩製で、幅18.0cm、厚さ18.0cmを測る。上部は家形を呈し、下部の中央部に「南無妙□□」が刻されている。2は須恵質の陶器底部である。底部外面に糸きり痕がある。3は口径16cmを測る玉縁状口縁部を持つ白磁碗である。4～6は口径12cm前後を測る瓦器碗である。内面は粗い暗文(磨き)が施され、外面は指押さえの後、ナデによる調整がみられる。7は口径22.0cmを測る瓦質羽釜である。鐔はほぼ水平に取り付く。外面の全面に煤が付着する。8は口径およそ25cmを測る須恵器鉢で、体部から口縁部まで直線的に斜め上方へ立ち上がり、端部を断面三角形におさめる。S K01から出土した土器類の時期は、概ね14世紀前半代である。

溝S D03(9～12) 9は口径14.2cm、器高5.3cmを測る土師器高杯である。杯部は碗形を呈し、端部を丸くおさめる。内外面とも指押さえ後ナデを施す。10は底径10.2cm、脚高6.6cmを測る土師器高杯の脚部で、裾開きのものである。内面は縦方向のナデ、外面は縦方向のヘラによるナデ磨きが施される。9との接点は見出せないが、胎土、色調等が似ていることから同一個体と思われる。11は土師器高杯である。12は須恵器高杯の脚部である。底径10.6cm、脚高6.1cmを測る。脚部に等間隔に円形の孔が3個穿れる。9～12の時期は5世紀後半代である。

土坑S K09 13は口径18.0cm、器高5.3cmを測る須恵器碗である。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸くおさめる。時期は10世紀後半代である。このほか、土師器皿がある。

溝S D07(14～20) 14～19は土師器皿である。14・18・19は口径12～14cm前後、器高2.5cm、器壁の厚さ3～4mmを測る土師器皿である。口縁部は外反気味に斜め上方に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内外面ともナデ調整で口縁部を除く内外面には指押さえの痕跡が多く残る。15～17は土師器皿で、口径10cm前後、器高1.2～1.5cmを測る。口縁端部を内側に巻き込んだ、所謂「て」字口縁と呼ばれる器壁が薄いのを特徴とする皿である。20は須恵器杯蓋で、口径16.0cm、器高1.2cmを測る。天井部は平坦で宝珠ツマミが取り付くものと思われる。S D07の時期は、概ね10世紀第4四半期～11世紀第1四半期である。

## 4. まとめ

今回の調査は、府道の拡幅工事に伴う狭い範囲での調査であり、各遺構ともその一部を確認したのみであり、遺構の全容については不明な点が多い。ただ、周辺の調査地との関連から類推すると、平安時代前期の溝S D07は宝菩提院廃寺の寺域を示す遺構の可能性も考えられる。同時期の平安時代前期の遺構としては、その性格は明らかでないが、素掘りの井戸の可能性も考えられる土坑S K09がある。この平安時代前期の遺構には平瓦片が含まれ、宝菩提院廃寺との関連も考えられる。土坑・柱穴などは中世以降の可能性が高く、物集女街道沿いの集落の一端を表したものである。(竹井治雄)

# 圖 版



(1) 1 トレンチ調査前全景(東から)



(2) 1 トレンチ全体(西から)



(3) 1 トレンチ溝 S D03、土坑 S K 01完掘状況(南から)





(1) 1 トレンチ溝 S D03  
土層堆積状況(西から)



(2) 1 トレンチ溝 S D03  
土器出土状況(南西から)



(3) 1 トレンチ土坑 S K01  
検出状況(南から)



(1) 1 トレンチ土坑 S K01 石製品  
(題目塔、北から)



(2) 2 トレンチ調査前風景(西から)



(3) 2 トレンチ全体(東から)



(1) 2 トレンチ溝 S D07 全体  
(東から)



(2) 2 トレンチ溝 S D07  
土層堆積状況 (東から)



(3) 2 トレンチ井戸 S E05 完掘状況  
(西から)

(1) 2 トレンチ井戸 S E 05  
土層堆積状況(東から)

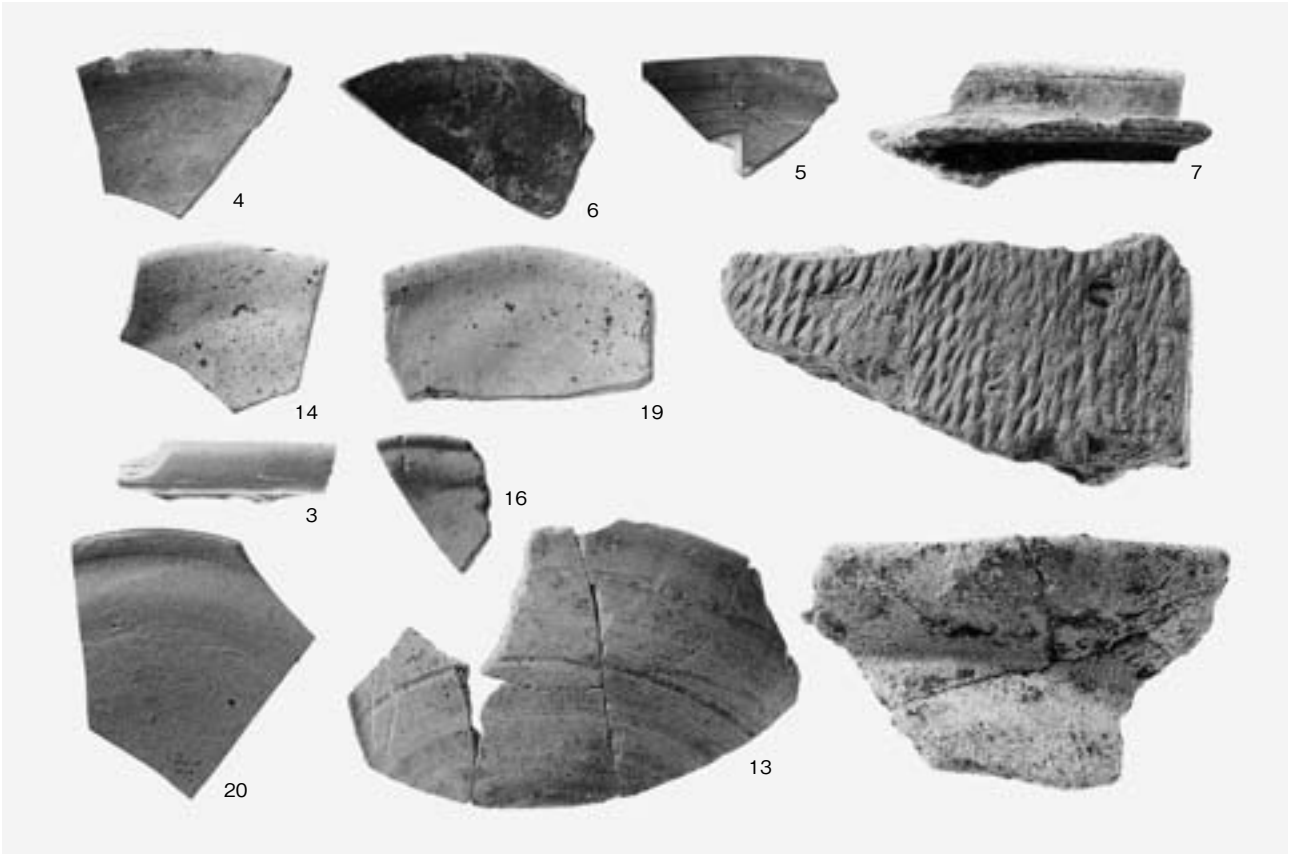


(2) 2 トレンチ P 3 検出状況  
(上が北)



(3) 2 トレンチ P 3 土層堆積状況  
(南から)





(1) 出土遺物 1



(2) 出土遺物 2

京都府遺跡調査報告集 第 140 冊

平成22年 3 月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141